

**田子町県境不法投棄原状回復調査協議会
第19回ワーキンググループ会議 議事要旨**

■ 日時及び場所平成25年9月20日(金)15:30~17:00 役場第1会議室

■ 出席者:中村忠充委員(議事進行)、宇藤安貴子委員、山本わか委員、宮村純吉委員、一ノ渡尚武委員、畠山嘉明委員、中村康孝委員計7名

田子町:中澤室長、中村洋康主事計2名

■ 案件

- (1)地山確認について(感想など)
- (2)環境再生計画の取り組みについて(状況報告)
- (3)全量撤去終了時の対応について
- (4)その他

■ 討議内容

(1)地山確認について(感想など)

- ・ 今日確認してみて本当にきれいになったと感じた。とても感慨深い。
- ・ 異臭はあるものの、最初に比べると匂いもそれほどではない。
- ・ 遮水壁はずっと残してほしい。
- ・ 青森県の産廃搬出作業終了はほしい11月初旬予定。(岩手県は今年中)

(2)環境再生計画の取り組みについて(状況報告)

- ・ 自然林の造成については県としては50cmぐらい客土をして、雪が降る前に地形形成をした
い。(遅くとも来春中に地形形成を行うとの予定と聞いている)
⇒その後、2年を目途とし植栽事業を行う。(候補としては以下を予定)
 1. 「企業の森」区画を6から7区画に分けて、企業に募集し植栽してもらおう。(5年管理)
 2. 八戸森林組合が現場全部を植栽して管理して最終的には土地を県から買い取りたいと
いう意向もある。
⇒10年間地下水の浄化が行われている中、安全性が未確認状態での売却は地元
は認めることはできない。(委員意見)
 3. 地域振興という観点からバイオマス事業(東急建設)
 - 水素ガス発生をさせて燃料を生成。
⇒技術的に困難、木材の買取価格の折り合いが難しいということで中断。
 - メタン発酵(豆腐のオカラカス、鶏糞、豚糞)で発電し、売電の計画構想。
⇒1,200tのタンクが必要でさらに検討を要すると聞いている。
- ・ 植栽の苗木は町の所有林から県が苗を育成。(ポッド苗36,000本 ポッド苗になっていないもの15,000本を保有)

- ・ 植栽の事業として三八森林組合と八戸森林組合の折り合いがついている事が重要。
⇒畠山委員が八戸森林組合の動向を三八森林組合に話してみ確認。
- ・ バイオマス事業で再度産廃が埋められることがないように注視する必要がある。

(3)全量撤去終了時の対応について

- ・ 全量撤去は11月初旬予定。
- ・ 一区切りついたということで青森県知事に感謝の気持ちを伝えたい。
⇒中澤課長を通じて、県に伝える。(会えるようであれば会いたい)

(4)その他

- ・ 現場に記念碑を建てるのはどうか。(歴史を残す)
⇒植栽事業やバイオマス関係で現場の状況が整い次第考える必要がある。
⇒コスト、規模については今後課題。(町の事業としては難しい)
- ・ 県は看板、100人会は記念碑を建てるといった同様の考えがある模様。